



判所だったと聞いていた。

(古いし建物はでかいし、……やっぱりすげえ町なんだ)

しかし、広人にはなじめない。全く無関係な場所に来て  
いるというのが正直な気持ちだ。

父の勤める商社がローマにあって、父は長年単身赴任を  
していた。ところがこの九月から、家族をローマに呼び寄  
せた。五年生の広人も、十日前に母、妹と一緒にここに越  
してきた。何がおきる？ そんな好奇心で胸がいっぱいだ  
った。でも越してきて早々期待は裏切られた。言葉は通じ  
ないし話しかける相手もない。

今日だってお昼のランチタイム、広い食堂の片隅でパニ  
ーニを一個、そそくさと一人で食べた。二年生の歩美はそ  
んな兄を気遣わしそうに見てはいたが、自分は、出来たて

すぐわきをごうごう音をたてて川が流れている。テベレ  
川だ。

ずっと昔、軍神マルスの子ロムルスとレムスという双子  
の兄弟が籠にいれられてこの川に捨てられた。二人はメス  
のオオカミに乳をもらい、育っていった。ところがやがて  
兄が王になることを妬んだレムスは兄を攻める。そうして  
逆に殺される。こうして生まれたのが、ロムルスが初代の  
王になるローマ帝国だった。

広人はそんな夢のような話を突然思い出した。  
それほど大昔からある川のほとりを今歩いていることが  
とても不思議だ。

目を移すと川向うにはとてつもなく大きな建物がいくつ  
か並んでいる。その一つ、白い大きな建物は、もと最高裁